



現在の谷保天満宮梅林 100年前の昼食会の雰囲気そのものです。



有栖川宮威仁親王殿下台臨記念碑。(谷保天満宮梅林)
裏に明治41年8月1日と日付が刻されています。

トヨタ博物館 写真提供 明治41年8月1日 (1908年) 有栖川宮威仁親王殿下の様子、右端が有栖川宮様の御先導に



自動車実用化への貴重な先駆

わが国初の自動車「遠乗会」 (タクリー号)

○明治四十一年八月一日 有栖川宮様の御先導によりわが国初の遠乗会が国立の鎮守 谷保天満宮を目的地として催されました。



日本初のガソリン自動車誕生

今から一〇〇年以上前の一九〇七年（明治四〇年）わが国初のガソリン自動車が誕生した。

これは、『自動車の宮様』と呼ばれた有栖川宮威仁親王殿下が東京自動車製作所の吉田貞太郎につくらせたガソリン自動車です。国産吉田式自動車とも、ガタクリ、ガタクリ走るというので、『タクリー号』ともあだ名され、その名の方が知られています。

タクリー号のオーナー

タクリー号のオーナーは、有栖川宮殿下を筆頭にいずれも当時の政財界の名士ばかりでした。

- 第1号車 有栖川宮家
- 第2号車 井上馨
- 第3号車 中上川次郎吉
- 第4号車 大日本ビール（現サッポロビール）
- 第5号車 森村市左衛門
- 第6号車 日比谷平左衛門
- 第7号車 難波一
- 第8号車 栗生武右衛門
- 第9号車 有馬頼萬
- 第10号車 福沢諭吉（子息駒吉）

わが国初の壮遊と称された「遠乗会」

一九〇八年（明治四一年）八月一日有栖川宮の車を先頭にタクリー号三台、ファイアット・フォード・メルセデスなどが隊列を組んで甲州街道を当時の言葉で「遠乗会」つまりドライブツアーが行なわれました。そして

自動車遠征隊

大将自ら把手を執り給ふ

わが国初の自動車遠乗会（ドライブツアー）日本には始めての壮遊

有栖川宮殿下の自動車乗用御奨励の御志しに基き東京に於て自動車に興味を有する人々は昨一日甲州街道の立川迄遠乗会を催した、午前八時半頃一同日比谷公園に會して夫より三年町の有栖川宮邸に参邸

殿下の御乗用車 殿下の御乗用車ダラック號（價格一萬五千圓）は三十五馬力を有する英國製で殿下は常に自ら把手を執り給ふのであるが當日も殿下は鈍色の詰襟にハンチングと云ふ御輕装で矢張り把手を執つて真先に立たれた

沿道の光景 午前九時御乗用車に扈從して續くものすべて十臺、新宿を出づれば甲州街道は坦々として砥の如く立川迄凡そ八里、流石は古い街道だけに両側の樹木は鬱蒼として涼しい木陰を作り其間を矢の如く風を切つて行くのだから涼しいことも涼しいが何しろ十一臺と云ふ自動車揃つて行くが見物で殿下御通過のことを聞き知つた沿道の村民は國旗を掲げて迎へ奉り此盛んな光景を見んとする老若男女は此處彼處に群がつて居る

森林中の立食場 立川へ着いたのが午前十一時、暫時此處で休んだ後一里程引返して藪村の天満宮迄來ると此處には既に立食場の設けが出来て居るので一同附近を流れて居る清水で出發以來の汗と塵を拭ひ俄作の食卓に就いた、同社の境内は古い杉や大きな櫛がコンモリとして此處許りは如何な炎熱も浸し難く見江る處であるが

食卓の設けられたのは一方は梅林に連つて日影の洩れぬ涼しい處、特に殿下より御辨當を賜はり、ビールやサイダーは傍の清水に投げ込んで冷こくなつて居るのも嬉しいが時時風に揺られて食卓の上へ木の葉の落ちるなども却て趣が深い

長岡少將の演説 馳で食事が済むと長岡少將は起つて「日本にも近來だんく自動車が入り込んで商家も之を用ひ事務家も之を用ひ軍隊でも之を試験する様になつた殊に軍隊では將來之を砲車にも輸送車にも用ひたいと云ふ希望を持つて居る、現在日本に於ける自動車は其數に於ても製作に於ても決して盛んだと云ふとは出来ぬが今日の如く自動車が十臺餘りも揃つて遠乗会をしたことは自動車の為に記念すべきことで而も今日此壯舉を試みることに出來たのは全く有栖川宮殿下の御奨励と御庇護に依るものである」と述べ殿下の萬歳を三唱して一同之に和し更に自動車の萬歳を唱へた

わが国初の自動車クラブ

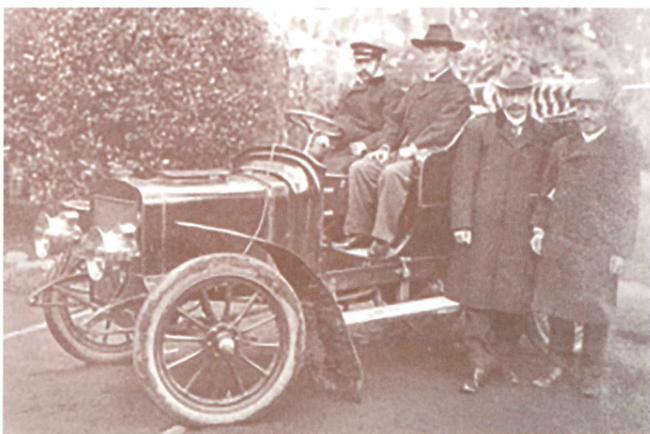
次に矢野恒太氏が起つて此機会を利用して自動車俱樂部を設立せんことを謀り一同之に賛成したので氏は更に言葉をつぎ

現在多くの人々が乗つて居る馬車人力車は此忙しい時代に仕事をする人の乗用車としては實に非文明的で又不便である。之は是非自動車の如き文明的なものに代へなければならぬが然し現在の自動車は餘り價が高いから誰でも之を買ふと云ふことは不可能である、されば如何にしたら自動車を安く作ることが出来るかを研究するのは刻下の急務であるがそれには相當の費用も要るし有力者の力も假らねばならぬ、是非諸君の御盡力に依て此事を成功したいものだ」と述べ一同は拍手を以て之を迎へた

自動車工業の芽生え

昼食会の場所とされたのが国立の鎮守谷保天満宮の梅林でした。

梅林には、記念碑が残されており、令和十年がわが国初のドライブツアーから百二十年目の年に当たりました。その時の新聞記事・写真が幸いにも残っておりますので、ご覧下さい。



交通安全祈願発祥の地

歸途 此演説の途中から雷が鳴り出して將に雷雨が來さうに見江たので一同天満宮の拜殿を借りて暫時休んだが幸ひ雷雨も來なかつた、晝飯の席上で自動車俱樂部の設立が定つたから歸りには各オートモビル、クラブ、ジャパンの頭文字だけ青地に抜いた旗を翻へし再び殿下のダラック號は眞先に勇ましく同地を出發したのは午後二時過ぎ、元來た道を一走りに新宿から東京に入り一同有栖川宮邸に参着して殿下より有難きお言葉を頂戴し水水などの御振舞を受け各散會したのは午後四時半であつた尚當日参列した自動車及重なる人々は左の如くである

ハンバー號（澁澤榮一氏所有）中上川勇五郎、中上川小六郎、日比谷祐造、日比谷平吉、日比谷平太郎
△東京自動車製作所製作車第四號（中上川次郎吉氏所有）同氏長岡陸軍少將、中上川三郎吉△同上第七號（森村市左衛門氏所有）矢野恒太△同上第八號（日比谷平左衛門氏所有）中上川鐵四郎、高田正一△フォード號（小栗彦太郎氏所有）同氏、玉置博△マゼンソン號（古河虎之助氏所有）吉田貞太郎、長谷川鏡太郎、村井吉兵衛、村井貞之助、日比翁助、溝口伯爵令息、曾我子爵令息△フヒヤット號（大倉喜七郎氏所有）同氏、佐々木伯爵令息、同夫人、森村開作、同夫人、日比谷つる子、中上川みち子、△此外ハーパー號は修繕車として三越のクレメント號は貨物運搬車として参加した

東京朝日新聞
明治四十一年八月二日

☆一〇〇年以上前、明治四十一年八月に、谷保天満宮の梅林で『日本の自動車の将来』が語り合われました。現在、日本の自動車産業は、世界でトップになりました。

☆この時、日本初の自動車俱樂部『オートモビル・クラブ・ジャパン』が設立されました。